

計画策定の主な背景

計画策定に当たって考慮すべき特徴的な社会事象をまとめました。

1. 人口構造と医療・福祉の状況

神奈川は全国屈指のスピードで高齢化が進むとともに、少子化も進行しており、2020年頃に人口のピークを迎え、その後減少していくことが見込まれています。一方、平均寿命が延伸するとともに、年齢を重ねても元気に活躍している高齢者も多く、長寿社会のあり方について関心が高まっています。こうした中、県では、超高齢社会を乗り越えていくため、「最先端医療と最新技術の追求」と「未病の改善」の2つのアプローチを融合し、健康寿命の延伸をめざす「ヘルスケア・ニューフロンティア」の取組みや、人生100歳時代において県民の一人ひとりに多様な生き方を考えていただくための取組みを進めています。また、高齢になっても住み慣れた地域で笑って元気に生き生きとくらす社会の実現に向けて、住民同士が支え合うコミュニティの機能に再び注目が集まっており、「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念である誰もがその人らしくくらすことができる地域社会の実現も求められています。

→ 柱Ⅰ「健康長寿」

2. 産業・経済の状況

AI(人工知能)、IoT[※]、ロボット、ビッグデータなどの第4次産業革命による技術革新やイノベーションを、あらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立する「Society5.0」の実現が国において提唱されています。こうした中、自動走行、自動配送、キャッシュレスなどの最先端技術を活用したまちづくりを可能とする「スーパーシティ構想」を巡る動きも活発化してきました。また、グローバル化の一層の進展や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下「東京2020大会」という。)の開催などにより、世界とのつながりが深くなる一方、産業や暮らしを支えるエネルギーに関する課題、高齢化や人口減少による事業承継や人手不足といった課題など、経済をとりまく環境にも変化が生じています。このような動きを踏まえながら、国家戦略特区制度なども活用し、経済のエンジンを回していくことが求められています。

→ 柱Ⅱ「経済のエンジン」

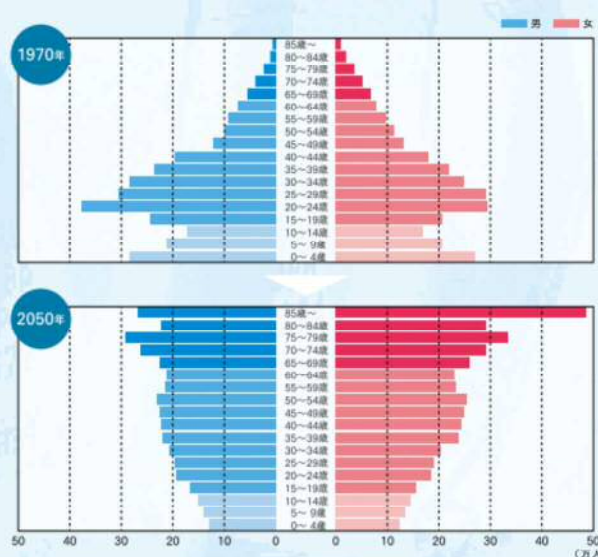
※Internet of Thingsの略称。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化などが進展し、新たな付加価値を生み出すもの。

3. 災害・犯罪の状況

南海トラフ地震や首都直下地震のほか、豪雨や暴風、高潮、噴火など自然災害に対する脅威が高まっており、減災への取組みが一層求められています。また、県内の刑法犯認知件数は減少傾向にあり、犯罪情勢には一定の改善が見られるものの、高齢者を狙った特殊詐欺や、子ども、女性が被害者となる県民が身近に不安を感じる犯罪は依然として後を絶たない状況です。さらに、自転車交通事故の多発、日常生活の一部となったサイバー空間における犯罪の増加、インターネット取引の増加に伴う消費者トラブルの増加なども懸念されています。こうした状況を踏まえ、災害に強いまちづくりや、県民が安全で安心できる社会を実現していくことが求められています。

→ 柱Ⅲ「安全・安心」

● 神奈川の人口ピラミッドの変化



4. 暮らしをとりまく状況

家族形態の変化や生活様式の多様化などにより、家族や地域社会とのつながりが希薄化する中、一人暮らしの高齢者、不本意に非正規で働く若者、ひとり親家庭など生活上の様々な課題を抱える人が、年齢を問わず社会的な孤立に陥りやすくなっています。様々な分野で女性の活躍が進む一方、長時間労働や長時間通勤などにより、育児・介護と仕事の両立は容易ではなくなっており、柔軟な働き方やワーク・ライフ・バランスを実現し、誰もが支え合いながら活躍できる社会の実現が求められています。また、子育て家庭を支えるしくみづくりや、虐待、いじめ、貧困など、様々な困難に直面する子どもたちへの支援が急務となっています。さらに、生涯にわたる学びの機会やスポーツ、文化芸術に親しむ機会を確保することで、誰もが生き生きとくらす社会を実現していくことが求められています。

→ 柱Ⅳ「ひとのチカラ」

5. まちづくりをとりまく状況

高齢化の進展や人口減少が見込まれる中、行政、医療・福祉、商業などの各種機能を地域の実情に応じてコンパクトに集約するとともに、各地域を交通等のネットワークで結ぶことで、利便性を向上させ、都市機能を維持することをめざす「コンパクト+ネットワーク」の都市づくりや、老朽化するインフラを適切に管理していくことが求められています。また、地球温暖化をはじめとする気候変動、限られた資源の有効活用、生物多様性の損失など、地球環境をめぐる課題への対応が引き続き求められています。こうした中、各地域では、豊かな自然環境、歴史、文化などを生かした地域活性化が期待されているとともに、今後も増加が見込まれる外国籍県民等にとってくらしやすい環境づくりが求められています。さらに、地域課題が複雑化・多様化する中、その解決に当たっては、NPO[※]、企業、大学、団体、市町村など多様な主体との協働連携がより一層重要となっています。

→ 柱Ⅴ「まちづくり」

※Non-Profit Organization(民間非営利団体)の略称。本計画では、NPO法人だけでなく、公益を目的とする非営利の民間の自主的な活動を行う法人及び法人格を持たない団体を指す。

● ヘルスケア・ニューフロンティア



● 未病を改善する



めざすべき 4年後の姿

～コミュニティの再生・活性化による
笑いあふれる100歳時代～

超高齢社会や人口減少社会における課題を乗り越え、誰もが生きがいをもてる充実した長寿社会、一人ひとりのいのちが輝く持続可能な地域社会を実現するためには、その人らしく生き生きと活躍できる環境づくりとともに、互いに認め合い、支え合いながらいつまでも地域でくらし続ける環境を整えることが重要です。

そこで、コミュニティの再生・活性化による笑いあふれる100歳時代に向けて、5つの「めざすべき姿」を掲げ、「第3期実施計画」に示したプロジェクトなどに着実に取り組みます。そして、「かながわグランドデザイン」の基本理念である「いのち輝くマグネット神奈川」の実現をめざします。

未病を改善し健康長寿の神奈川

未病を改善し、誰もがその人らしく笑って生き生きとくらし、健康で長生きできる神奈川を実現します。

→ 柱Ⅰ「健康長寿」

経済のエンジンによる活力あふれる神奈川

技術革新やグローバル化に積極的に対応するとともに、国家戦略特区制度などを活用して経済のエンジンを回し、活力あふれる神奈川を実現します。

→ 柱Ⅱ「経済のエンジン」

安全で安心してくらす神奈川

大規模地震などの自然災害、犯罪や交通事故などへの対策をより一層強化し、県民のいのちを守り、安全で安心してくらす神奈川を実現します。

→ 柱Ⅲ「安全・安心」

ひとのチカラを最大限に生かす神奈川

年齢や性別にかかわらず誰もが自らのチカラを発揮し、一人ひとりが輝いて、心豊かに躍動する神奈川を実現します。

→ 柱Ⅳ「ひとのチカラ」

地域の個性が輝き魅力あふれる神奈川

地域の個性が輝き、人を引きつけ、次世代に引き継げる魅力にあふれた神奈川を実現します。

→ 柱Ⅴ「まちづくり」



プロジェクト

柱Ⅰ 健康長寿

- 1 | 未病 012
- 2 | 医療 014
- 3 | 高齢者 016
- 4 | 障がい児・者 018

柱Ⅱ 経済のエンジン

- 5 | エネルギー 022
- 6 | 産業振興 024
- 7 | 観光 026
- 8 | 農林水産 028

柱Ⅲ 安全・安心

- 9 | 減災 032
- 10 | 治安 034
- 11 | 安心 036

柱Ⅳ ひとのチカラ

- 12 | 男女共同参画 040
- 13 | 子ども・青少年 042
- 14 | 学び・教育 044
- 15 | 文化芸術 046
- 16 | スポーツ 048
- 17 | 雇用 050

柱Ⅴ まちづくり

- 18 | 地域活性化 054
- 19 | 多文化共生 056
- 20 | 協働連携 058
- 21 | 自然 060
- 22 | 環境 062
- 23 | 都市基盤 064